

第16回ドライブレコーダーシンポジウム

16th Symposium of Japan Drive Recorder Consortium
自動車技術会映像情報活用部門委員会 公開委員会

ドライブレコーダーDXによる次世代安全運転管理の構築

11.14 木

13:00 - 17:50

開催主旨

近年ドライブレコーダーは、交通事故処理や訴訟の証拠資料として記録を残すだけでなく、通信機能、映像のAI解析等の技術進化により、新たな用途が期待されています。なかでも、交通事故のない社会を目指すために、事業用車両の運行管理への活用はもとより、自家用自動車を含めた全車両における安全運転管理への活用が期待されています。

こうした背景を踏まえ、今回のシンポジウムではドライブレコーダーによる安全運転管理等の現状と課題、また交通事故裁判事例での映像の証拠能力などについて、有識者を交え活発な議論を展開します。

参加費：無料（資料販売あり 1,000円） 会場：東京農工大学 小金井キャンパス140周年記念会館（エリプス）
〒184-0012 東京都小金井市中町2-24-16

プログラム

司会：ポンサトーン・ラクシンチャーンサク理事
(東京農工大学工学部教授)

14:00-14:15	開会挨拶	永井正夫 一般社団法人 ドライブレコーダー協議会 会長 榎田修一 公益社団法人 自動車技術会映像情報活用部門委員会 委員長
14:15-14:45	特別講演	事業用自動車の安全対策と運行管理におけるDXの活用について 国土交通省物流・自動車局安全政策課 永井啓文 氏
14:45-15:15	講演1	デジタルタコグラフを用いた次世代安全運転管理 矢崎総業株式会社 加藤 孝俊 氏
15:15-15:45	講演2	事故対応におけるドライブレコーダーのデータ活用について あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 山崎 翔太郎 氏
～ 休憩 ～		
16:00-16:55	パネル ディスカッション	人流・物流の革新が進んでいる中、安全性向上、効率化、DX化が求められている。そこで次世代ドライブレコーダーに求められる技術的ブレークスルー、新しいビジネスモデルは何か、損保業界・事故処理・裁判等におけるドライブレコーダーの果たす役割、データの活用法、制度上の課題は何かを徹底討論。 パネリスト：永井正夫会長、鳥塚俊洋副会長、永井啓文氏、加藤孝俊氏、山崎翔太郎氏、重松智史氏(株式会社ミックウエア)、丹羽洋典氏(合同会社nitro)
16:55-17:00	閉会挨拶	鳥塚俊洋 一般社団法人 ドライブレコーダー協議会 副会長

■ 展示会：13:00 - 17:50 (ドライブレコーダーや映像機器に関する物品、パネル展示)
■ 懇親会：18:00 - 20:00 (参加費 2,000円/税込)

お申込み・お問い合わせ

申込フォーム：<https://forms.gle/YnkdyzffmLgKtgr58>HP：<https://www.jdrc.or.jp/>問い合わせメール：info@jdrc.or.jp

主催：一般社団法人 ドライブレコーダー協議会

共催：公益社団法人 自動車技術会映像情報活用部門委員会

協賛：国立学校法人 東京農工大学スマートモビリティ研究拠点